

この1年を振り返って

総務企画部長 首藤 剛

一年間総務企画部長として活動させていただき有難うございました。ふり返れば災害時に危険な場所が多い所だということが解り、総務企画部員として防災事業の重大さがよく解るとともに、周囲の皆さんの防災意識がまだまだであることを痛感しました。災害時に自分や家族を守るにはどんな行動が必要か、どこに避難すれば良いかとか、基本ができていないと感じたりもしました。

これからこの経験をきっかけとして地域防災に積極的に関わっていきたいと思います。また総務企画部としては大変ですが、地道に地域防災に取り組み、皆さんの役に立てるようになればと感じています。



「今年の取組」詳細版は別紙で紹介しています。



公民館部長 恩沢 一行

公民館部では地域の皆さん各世代の交流を進めようと事業に取り組んできました。

この一年は部員一年目で部長を任命いただいたこともあって、手探りで事業を推進してきたように思います。

新年度もふれあいの場を一つでも多く提供できるよう事業推進して行きたいと思います。

一年間有難うございました。



ふれあい部長 須山 栄子

23年度は災害年といっても過言ではない一年でした。3月の東北大震災、9月には台風12号による大雨被害と自然の脅威に人はどうすることも出来ないものと思い知らされたものでした。

そして人間が科学の力で生み出した原子力の威力、目に見えない放射能の恐怖その中でも負けずに生きていかなければならない人間の営み。

家族、友人、地域のつながりを見直すことも出来た年でした。来年度もふれあい部の活動に御協力宜しくお願い申し上げます。

地域づくり部長 瀬崎 中孝

地域づくり部長として一年が経過しました。

全集落の方々の協力で、大国祭りは、成功に運びました。

ゴミ不法投棄のボランティアも毎年皆さんに、お世話になっております。ご協力ありがとうございます。

部員だけでは、何も出来ませんのでこれからも皆さんのご協力があればこそですので、これからも、よろしく願いいたします。



健康コーナー

あなたも「ゲートキーパー」になろう!!



3月は、自殺対策強化月間です。出会いや別れ・就職・転職など、新しい生活が始まっていくこの時期、精神的に不安定になる人が多く、平成10年以降、連続して年間3万人以上(1日90人近く)の計算になります)の自殺者がいると言われていました。

そこで、誰にでもできること、それが「ゲートキーパー」です。ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけて、話を聞いて必要な支援につなげて見守る人のことを言います。

「眠れてる?」「疲れてない?」など、何か気になる人がいたら、声をかけてあげましょう。一緒に話を聞いてあげることが、当事者には随分大きな意味を持ち、気持ちになります。

ただし、励ましたり、「頑張る」というのは絶対にダメです。それは、抑うつ状態にある人には追討ちをかけることになってしまいます。

気づき、耳を傾けて、つないで、見守って、自ら命を絶つ人をなくす役にたってみませんか?

記:鍋倉区 山岡加奈子